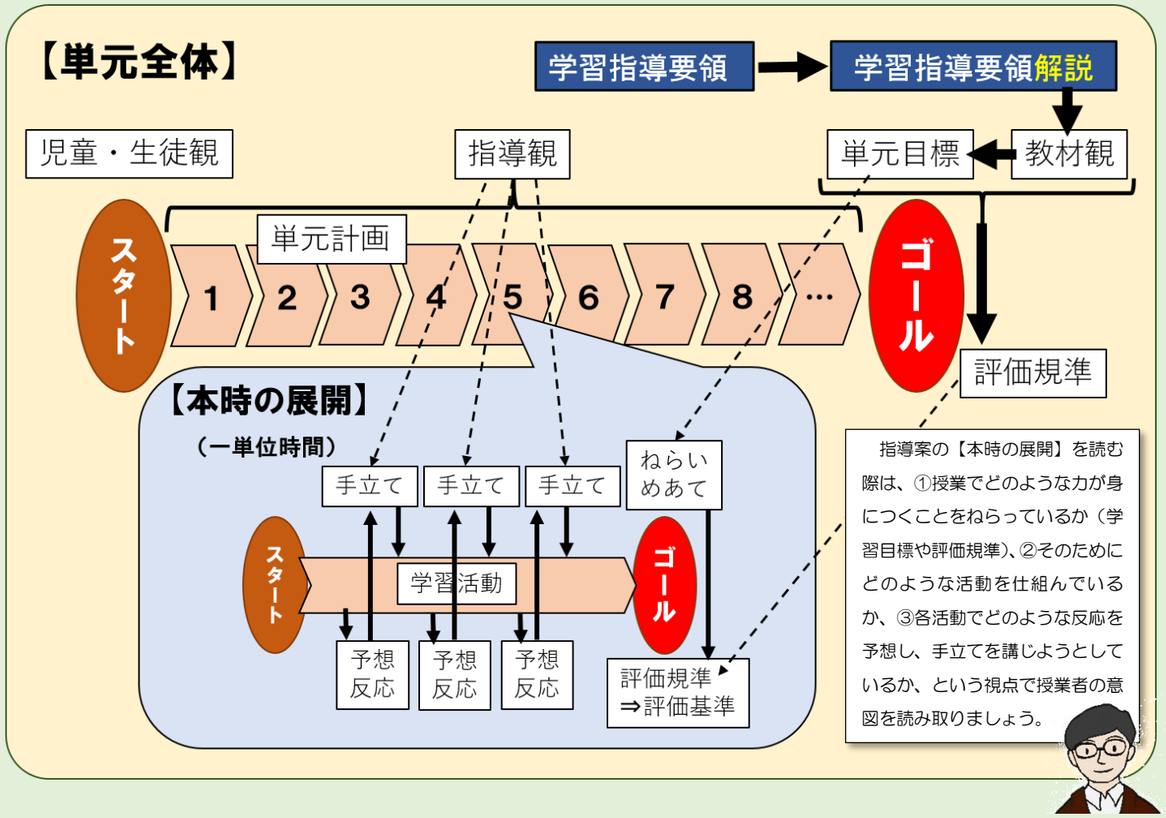
【学習指導案構成図】～スタートからゴールまでのストーリーの組み立て



【授業の見方】～授業で見いだされる児童生徒の姿は、偶然ではなく必然

「授業を通して実現した子供の姿が、教師のどのような指導の仕方や手立てによって生まれたのかを見抜く視点が必要です。授業で見いだされる子供の姿は、偶然表れるものではありません。その背後には教師の意図による必然性があるのです。」（『授業の見方』著：澤井陽介より）

授業前
- □ 学級の雰囲気や学習準備状況などから、児童生徒の学習に向かう姿勢を観察しよう。
- □ 掲示物や机の並びなど、学習環境を把握しよう。
- □ 教室の後ろ、横、前のどこで授業を見るのかを決めよう。

授業中
- □ 児童生徒がゴール（本時の目標）に向かう道筋を追っていこう。
- □ 教師の発問や指示に対する児童生徒の反応を注意深く観察しよう。
- □ 児童生徒の反応に対する教師の対応を注意深く観察しよう。
- □ 机間巡視をして、つまずいている児童生徒を見つけよう。
- □ 机間巡視をして、思考が深まっている児童生徒を見つけよう。

授業後
- □ 学習後の余韻が、どのような形で表れているかを観察しよう。
- □ 学習（児童生徒の思考）過程が、どのように黒板に書き表されているかを確認しよう。
- □ 授業の山場やターニングポイントはどこだったかを検証しよう。

わからないこと、困ったことなどがあった場合、気軽に遠慮なく連絡をして下さい。
教育実践総合センター（松信）TEL：28 - 8398／

教師を志す佐賀大学の学生のみなさんへ

2024 年度版

学習指導案作成の手引き

授業とは、

昨日よりも今日というように、気づいたり工夫したり、教師自身に成長の実感がある。ありあわせ、持ち合わせの力で授業をしない。何事かを加える、何事かを加えられて教室を出る。
（大村　はま）

賢くなろうとして本や黒板に教えを乞うてはならない。
天と地と林と木の葉とは、本当に子供らを賢くするであろう。
（ヤン・アモス・コメニウス）

やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。
やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。
（山本　五十六）

人にものを教えることはできない。
みずから気づく手助けができるだけだ。
（ガリレオ・ガリレイ）

指導案とは、

教育は科学ではありません。
それは芸術でなければならないのです。
（ルドルフ・シュタイナー）

平凡な教師は言って聞かせる。
よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。
しかし最高の教師は子供の心に火をつける。
（ウィリアム・ウォード）

教育の過程はそれ自体を超えるいかなる目的ももっていない。
すなわちそれはそれ自体の目的なのだ。
（ジョン・デューイ）

評価とは、

人生は卒業後に自分からどれだけ能動的に働きかけるかで決まる。
（小柴　昌俊）

子供に教えるためには、子供を知らなければならない。
子供を知るためには、子供に教えなければならない。
（アラン＜エミール＝オーギュスト・シャルティエ＞）

学べば学ぶほど、自分が何も知らなかった事に気づく。
気づけば気づくほどまた学びたくなる。
（アルベルト・アインシュタイン）

教えることのできない子供というものはいない。
あるのは子供達にうまく教えられない学校と教師だけである。
（マックス・アドラー）

佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター

14の質問に答えながら、意図を明らかにした学習指導案づくりに着手しよう。

　学習指導案は、最終的に児童生徒にどのような力をつけるのか、そのためにどのように単元や授業展開を計画するのかを明らかにしたものです。また、児童生徒の学習の習得状況や学習課題を明記し、それを踏まえた上でどのような意図をもった指導を行うかを記述します。学習指導案は、授業の設計図です。

第〇学年〇組　〇〇学習指導案

　学習指導案の形式は、決まった形があるわけではなく、自治体や校種、あるいは教科等によって様々です。以下に示すのは、指導案の基本形です。

日　時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
場　所：〇〇教室
指導者：教育実習生　〇〇　〇〇

1　単元名（題材名）

Q1　この単元では、どのようなことを学ぶのですか？

2　教材観

⇒　学習指導要領解説を読み解き、この単元を通して身につけさせたい力をまとめましょう。
⇒　この単元の教科等における位置づけや学ぶ意義をまとめましょう。

Q2　この単元を学習するにあたって、児童生徒はどのような状態でしょうか？

3　児童観／生徒観

⇒　この単元や本時における既習事項の定着状態や学習に対する学級の課題を、整理してまとめましょう。
⇒　日頃の児童生徒の観察に加え、アンケートやレディネステストを実施して把握したことをまとめましょう。

Q3　つけたい力が身につくように、どのような手立てを講じますか？

4　指導観

⇒　児童生徒の実態を踏まえ、つけたい力が身につくようにするための単元全体を通した具体的な手立てを書きましょう。
⇒　「□□ができるように（目的）、〇〇をする（手段）。」という書きぶりを心がけましょう。

Q4　ズバリ、この単元で身につけさせたい力はなんですか？

5　単元（題材）目標

⇒　教材観に記述した内容を、端的に一文でまとめましょう。

Q5　身につけたい力が身ついたかどうかを判断するのに、どのような規準を設けますか？（どのようなことができればよしとするか？）

6　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

⇒　評価規準の各観点名は、教科等で異なりますので、各教科の「評価規準の観点名一覧表」などで調べましょう。
⇒　どのような学習状況であれば、単元目標を達成できたと判断するか、観点ごとに具体的に簡潔に記述しましょう。
⇒　文末は、「～している。」「～しようとしている。」にしましょう。

7　指導計画

Q6　いつ、どのような内容を取り扱いますか？

時	学習活動	指導上の留意点

⇒　「学習活動」は、単元全体の流れがわかるように、児童生徒が実際に行う活動に即した表現で記述しましょう。
⇒　「指導上の留意点」は、その時間に最も大切となる指導（手立て）を具体的に想起できるような表現を心がけて記述しましょう。

8　本時の活動

（1）ねらい

Q7　本時では、何ができるようになればよいですか？（本時で、どのようなことができればいいですか？）

⇒　「□□を通して（手段）、〇〇ができるようにする（目標）。」という書きぶりにしましょう。
⇒　できるだけ一つの文にまとめて簡潔に記述しましょう。

（2）展開　◆…評価規準（評価基準Ａ～十分達成、Ｂ～達成、Ｃ～達成不十分）

	学習活動	教師の働きかけ（・）と評価（◆）
導入	1　これまでの学習を振り返る。	・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
	2　めあてを確認する。	
	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。	
展開	3　□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。 ＜予想される反応＞ ・□□□□□□□。 ・□□□□□□□□□□□□。 4　□□□□□□□□□□□□。 ＜予想される反応＞ ・□□□□□□□□□□□。	・□□。 ◆　〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。 A　□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。 B　□□□□□□□□□□□□□□□。 →△△△△△△△△△△△△△△△△。 C　□□□□□□□□□□□□□□□。 →△△△△△△△△△△△△△△△△△△。
ま	7　本時を振り返る。	・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

Q8　本時で提示する“めあて”は何にしますか？

⇒　小学校では「めあて」、中・高校では「ねらい」とすることが多いようです。
⇒　本時の「ねらい」を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示しましょう。

Q9　どのような学習の流れ（活動）を考えていますか？

⇒　本時のねらいとするところに、児童生徒が自ら近づくように仕向ける学習活動を考えましょう。

Q10　児童生徒から、どのような発言や行動が反応として出てくると予想しますか？

⇒　各学習活動において、児童生徒の発言や行動を具体的にイメージし、どのような発言や行動がでそうかを書きましょう。

Q11　期待する反応が出るように、どのような手立てを講じますか？

⇒　「□□のために（目的）、〇〇をする（手立て）。」という書きぶりを心がけましょう。（「△△をさせる。」という使役表現は極力さけましょう。）

Q12　標準的にできるようになってほしいという状態は？

Q13　「これができれば“上出来”」という状態は？

Q14　標準に達していない児童生徒を標準にするための手立ては？

⇒　評価規準（◆）は、ねらいとして記述した内容と学習活動の内容を踏まえ、どのような視点で評価するのかを書きましょう。
⇒　評価基準はまず、本時の学習で標準的にできるようになってほしい状態（＝B基準）から考えましょう。
⇒　B基準の「→」にはA基準に導くための手立てを、C基準の「→」にはB基準に導くための手立てを書きましょう。